

「トリウム原子力システム研究専門委員会」設置のご案内

日本原子力学会 会員各位

「トリウム原子力システム研究専門委員会」設立準備会の幹事（事務局）を務めております東京都市大学の竹澤と申します。

本委員会は、近年各国で多く提案されているトリウム原子力システムについて、固体燃料、液体燃料の別なく、原子炉と燃料サイクル全体を俯瞰的に調査・検討することを目的として設置するもので、まもなく当学会理事会に対して委員会設立申請を提出すべく準備を進めております。

ついては、設立趣旨にご賛同され研究・活動にご参加いただける委員を募集いたします。

委員就任をご希望される方は、添付の「AESJ 研究専門委登録フォーム（委員送付用）」に必要事項を記入の上、設立準備会（竹澤）までメール添付にてお送りください。

- ・ メール件名： トリウム研究専門委員会への委員就任希望
- ・ 送信先： nuclearsafety[アットマーク]tcu.ac.jp
- ・ ファイル名： AESJ 研究専門委登録フォーム（委員送付用）_氏名.xls
- ・ 期 限： 2018 年 5 月 14 日（月）12:00

何卒よろしくお願い申し上げます。

名称：「トリウム原子力システム」研究専門委員会

(Research committee on thorium nuclear energy systems)

設立趣旨（抜粋）：

日本原子力学会では 2010 年、原子力学会核燃料部会に「軽水炉、高速炉におけるトリウム燃料の利用ワーキンググループ」（主査：山中伸介）が設置され、トリウム燃料を軽水炉、高速炉で利用する方法について検討が進められた。また 2013 年には「熔融塩技術の原子力への展開」研究専門委員会

（主査：山脇道夫）が活動を開始し、様々な熔融塩技術や熔融塩を用いた原子炉概念や加速器駆動炉等の新型炉概念を調査し、熔融塩取り扱いに関する最新の知見や研究開発課題が整理された。

いずれの委員会も 2017 年で終了したが、世界的にトリウム燃料やトリウム燃料原子炉に関心

が高まり、これらの開発が勢いを増している状況を鑑みると、原子力学会として各国のトリウム原子力開発の動向調査を継続する意義は大きい。またこれまでの研究専門委員会は、燃料形態を固体もしくは液体に限定していたが、これらを区別せず、本来不可分である原子炉と燃料サイクル全体を俯瞰的に調査・検討するための研究専門委員会を設立する。

研究・活動項目：

1. 諸外国・国内で進められているトリウムを用いる革新的原子炉・サイクル概念の最新動向の調査。（具体的には、検討・開発状況、開発の背景や体制、予算規模、許認可対応状況、実現性や経済性の見通しを調査する）
2. トリウム原子力システムの特徴や開発意義、ウラン原子力システムとの得失比較の検討
3. 我が国でのトリウム原子力研究のあり方に関する検討
4. 以上の調査・検討結果を当学会年会/大会での「総合講演・報告」で報告する。

設置期間： 2018 年 8 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日

幹事会構成（敬称略）：

- ・ 主査 高木 直行 東京都市大学
- ・ 幹事 魚住 浩一 電力中央研究所
- ・ 幹事 宇根崎 博信 京都大学
- ・ 幹事 北田 孝典 大阪大学
- ・ 幹事 佐々 敏信 日本原子力研究開発機構
- ・ 幹事 鷹尾 康一郎 東京工業大学
- ・ 幹事 三澤 毅 京都大学
- ・ 幹事 牟田 浩明 大阪大学
- ・ 幹事（事務局） 竹澤 宏樹 東京都市大学

関連部会：

- ・ 炉物理部会（主管部会）
- ・ 核燃料部会
- ・ 新型炉部会
- ・ 再処理・リサイクル部会

以上